

What's New

専門外来開設のお知らせ

一般・消化器・
小児外科の紹介

ダ・ヴィンチ [手術支援ロボット]



一般・消化器・
小児外科
李 相雄

質の高い治療を提供するために 一口ボット支援胃がん手術

胃がん手術とダ・ヴィンチ

本院では、手術支援ロボットであるダ・ヴィンチを用いた腹腔鏡下胃がん手術を積極的に行っており、これまでに良好な成績を残しています。また世界ではすでに4000台近いダ・ヴィンチが臨床・教育の現場で使用されており、米国では前立腺手術の約90%がダ・ヴィンチで行われている状況にあります。

ダ・ヴィンチを用いた手術では、従来の腹腔鏡手術と比べて、より安全で繊細な操作が可能となります。当然ながら胃がんの外科治療においても手術支援ロボットの普及が期待されています。しかし、現状ではダ・ヴィンチを用いた胃がん手術は保険診療が認められていないという大きな問題があります。本院では、より多くの方々にロボット支援胃切除を受けていただけるように取り組んでいます。

体に優しい手術とダ・ヴィンチ

今日、さまざまな外科領域において、従来の開腹手術が低侵襲手術へと変換されつつあります。内視鏡下による低侵襲手術の利点は、早い術後の回復、疼痛の軽減、短い入院期間、美容上の美しさなどが挙げられます。より複雑で細やかな手術を可能とするロボット支援手術は、これまでの内視鏡下手術の利点をさらに向上させうる次代を担う革新的な外科治療として期待されています。



手術を行う外科医は、ダ・ヴィンチの自然な3Dカメラを覗きながら、体内に挿入した鉗子を自らの手指のように操って手術を行います。まるで体内に入っているような不思議な感覚に例えられます。まさに、名作映画の「ミクロの決死圧」が現実のものとなったようなイメージです。

胃がんを治すために

「胃がんを治す」には、胃を切除するだけでなく、転移リスクのある胃周囲のリンパ節を確実に摘出することが求められます。ロボット支援胃切除術は患者さまの負担軽減を図りつつ、がんの根治を向上することが期待されているのです。この治療に関心のある方は、お気軽に一般・消化器・小児外科の外来でお尋ねください。

歯科口腔外科の紹介

顎変形症



歯科口腔外科学長
植野 高章

顎変形症とは

受け口(図1)や出っ歯(図2)など、あごに歪みを認める病気を“顎変形症”と言います。顎変形症の患者さまは、歯列矯正だけできみ合わせの治療を行うと歯や歯茎の負担が大きくなり、将来的に早期に抜歯が必要になることがあります。この病気の原因は、遺伝などの先天的な要因と生活習慣や環境などの後天的な要因が考えられていますが明らかになっていません。

顎変形症の治療

顎変形症の治療は歯列矯正と外科手術を必要とします。顎の骨は上あご(上顎骨)と下あご(下顎骨)で構成されています。手術は大きく分けて、上あごを動かす方法、下あごを動かす方法、上あごと下あごを同時に動かす方法の3つがあります。外科手術は一般的には骨の成長が止まる時期(16歳以降)に行います。

治療による効果

- 1) かみ合わせが改善することにより、食事がしやすくなります。
- 2) 受け口や出っ歯などを改善し、審美面の改善が得られます。

手術による合併症

- | | | |
|-------------|---------------|---------|
| 1) 術後の顔面の腫脹 | 3) 唇やあご周囲のしづれ | 5) 気道閉塞 |
| 2) 創部の感染 | 4) 骨接合材料の破折 | |

治療のながれと期間

顎変形症とその治療方法に関して説明します。

- ▼ 顔や口腔内の写真撮影、口の中の模型の採取、レントゲン撮影を行います。
- ▼ 歯列矯正での治療か外科手術のどちらが適切かを診断します。
- ▼ 手術後に安定するようなかみ合わせをあらかじめ作ります。このときは少し咬みにくくなることがあります。術前矯正には2~3年を要します。
- ▼ 術前矯正が終了すると手術に向けた準備に入ります。手術までに全身麻酔下手術のためにスクリーニング検査、また手術のときに輸血が必要になることがあります。そのための準備(自己血採血)を行います。
- ▼ 術後に歯並びの微調整を行います。術後矯正には1~2年を要します。
- ▼ 矯正装置を除去した後に、歯並びの安定化をはかります。保定には2年を要します。

* 本院は高度医療を行う特定機能病院です。受診の際は、かかりつけ医より広域医療連携センターで予約を取り、紹介状をご持参ください。

顎変形症の治療は、健康保険で行えます。



図1: 受け口



図2: 出っ歯

循環器内科の紹介

心不全看護外来



慢性心不全看護
認定看護師
兒島 理沙

〈心不全〉という病気をご存じですか？

〈心不全〉とは、なんでしょう。〈心不全〉は日常の活動を維持するのに必要な血液を心臓が全身に送り出すことができないことで、いろいろな症状となって現れてきます。日本では心不全になる原因としては高血圧が最も多く、そのほかに狭心症や心筋梗塞などの冠動脈の病気、弁膜症、心筋の病気、不整脈、感染症などの病気や、塩分や水分の過剰摂取、不眠、過労などの生活に関わることもあり、かならずしも高齢者のみの病気ではありません。

心不全の治療には、薬、減塩の食事、活動の制限、などがありますが、治療によって症状が改善されても慢性化することには注意が必要です。心不全が悪化を繰り返すと呼吸困難やしんどさが増してきて、自由に生活することが困難になります。また、心不全は生活の場で悪くなることが多く、心臓の状態に見合った生活を過ごすことが重要です。しかし、自身の心臓の機能と生活が見合っているのか判断することは難しく、悪化のサインを見逃して重症になってから受診されることもあります。私たちは、悪化を恐れて生活するのではなく、人生の楽しみを保持しながら心不全と向き合い、生きている喜びを実感できる

ような自宅生活を支援したいと考えて《心不全看護外来》を開設させていただきました。

《心不全看護外来》では、心不全の症状を観察し、面談を通して自宅での生活の様子をうかがいます。自宅生活を過ごすなかでわからないことや不安、悩みを解消できるように努め、外来主治医や多職種で構成される心不全チームのメンバーと一緒に連携して療養生活を支援したいと考えています。

また、自宅生活で心不全の症状を抱えながら、治療上必要な減塩の食事を調理することは容易ではありません。私たちは、医療売店や院内のコンビニエンスストアと連携し、減塩に関する食品を季節に応じ順次設置して、上手に病気とつき合っていくような生活の工夫を提案させていただきたいと思っています。

《心不全看護外来》の受診を希望される方は、外来担当主治医にご相談いただき、ご活用ください。



